



Zurab Topuridze

ズラブ・トプリゼ

地域 : Guria グリア地方
Kakheti カヘティ地方

造り手 : Zurab Topuridze
ズラブ・トプリゼ

HP : <https://iberieli.com/home>



【ワイナリーと造り手について】

ズラブ・トプリゼはジョージアの西、黒海に接するグリア地方とジョージアの最大産地でもある東のカヘティ地方、2つの地方にまたがりワイン生産をしている。彼のワイン造りの記憶は幼い頃に祖父のワイン造りを手助けしていた事までさかのぼる。しかし職業としては醸造家を選ばず、首都トビリシでのエネルギー業界の企業で働き始めた。トビリシで働く傍らグリア地方でのワイン造りもしていたが、2010年にトビリシの新酒祭りにチュハヴェリ酒を出品したところ評判となり、兼業でワイン生産・販売をしていくことを決める。以来2つの地方でのワイン造りにおけるジョージアの伝統を復活・継続させるべく、ジョージアの土着品種を作付けしワイン造りをしている。



ジョージアは東西に長く、東のカヘティ地方は、気温が高く乾燥している。一方、西のグリア地方は黒海に接する比較的冷涼多雨な地域。両地域の収穫時期には2か月程度の差があり、特にグリア地方の土



着品種であるチュハヴェリは成熟するのが 11 月になることもあるのだそうだ。そのため 2 地域でのワイン造りもさほど苦労はしていないとズラブは言うが、それを可能にするのは長年大きな企業で働いてきた中で培われてきた彼の能力なのだろう。そしてそれはズラブと 7 人の家族、共に働くイベリエリ・チームによって支えられているのだ。ワイナリー名の Iberieli (イベリエリ) とはジョージア人の先祖にあたるコーカサスの民族のひとつで、数千年も前からワイン造りをしていた民族だとされている。

【畑と栽培について】

カヘティ地方、ツィナンダリ村周辺に所有する畑は標高 450～500m に位置し、5.5ha の畑は石が多い砂質の土壌と少しの粘土で構成されている。設置されている防雹ネットはあまり一般的ではないが、カヘティでの 2016 年以降のワイン生産以降、何度も雹害に悩まされてきたために、設置を決めた。雹は突発的には降るが夏季の降雨量は非常に少ないので、必要に応じて感慨を行うが、畑は川の近くに位置しており、洪水のリスクがあるため、土手を築いて対策を講じるなど、ブドウ畑への環境改善には余念がない。





グリア地方には 7.5ha の畑を所有し、標高 250m ほどで海が近く降水量が多いため干ばつの心配は少ない。ただしチュハヴェリをはじめとする多くの土着品種の収穫時期が 11 月に入ることもあるほど遅いので、村では薪を焚き始める時期にさしかかり、その煙が村を囲む丘のブドウ畑にまで達して出来上がるワインに特有の薫香を与えてしまう。彼のグリア地方のワインの薫香については、品種や出来上がったワインによってもばらつきがあり、仮説の域を出ないが、いずれにしても悩ましい問題の一つだ。また顧客によってはその味わいを高く評価することもあるのが悩ましい所だ。



【セラーと醸造について】

カヘティ地方の 2016 年に建設されたセラーは畑から車で 20 分ほどの距離にあり、400L から 2000L のクヴェヴリが 16 基埋められ、標高 800m にあるセラーには周囲の山々から常に風が吹き込むため、自然な冷却効果が期待でき、人工的な温度管理が不要である。



グリア地方のセラーは畑のすぐ隣にあり、収穫後スムーズに醸造に移ることが出来る。標高は低くとも、もともと冷涼な気候で、クヴェヴリはすべて地面に埋められているため、急激な温度変化の心配はない。

クヴェヴリは定期的に蜜蝋での手入れが施され、クヴェヴリが満たされない場合や瓶詰前の澱引き時にはステンレスタンクが使用されることもある。

